

本報ではヨゴレの付着しやすいポリプロピレン平織布をモデル繊維として、各種界面活性剤水溶液中に分散させた Fe-Ox の付着平衡から再汚染性をしらべた。

2. 界面活性剤は非イオン（ポリオキシエチレンノニルフェノールエーテル型，E.0=8），Na-ABS，Na-LAS 牛脂脂肪酸石ケンの5種類。浴濃度は0.0002%~0.4%の20段階，Fe-Ox ヨゴレの浴濃度を0.1%に限定し，恒温振盪機（40°C，Stroke=130回/分）128時間迄の振盪より付着平衡値を求めた。Fe-Ox 付着量は汚染布をクロロホルム抽出後分光光度計（ $\lambda_{\max}=470\text{m}\mu$ ）にて比色定量を行なった。

3. Fe-Ox 平衡付着量—界面活性剤濃度曲線を作製したところ，従来みられなかった顕著な特性が明らかとなった。

即ち，アニオン系活性剤では0.002%付近に付着量の極小値，0.005%（Na-LAS），0.01%（Na-ABS），0.02%（牛脂石ケン），0.035%（SDS），にそれぞれ極大値がみられ，非イオン活性剤では0.001%に極大値が得られた。この結果は，P.P/Fe-Ox 系の洗浄性と関連づけて考察する場合の重要な知見を与えると考えられる。